



(社)日本建築美術工芸協会 2010.1.



(社)日本建築美術工芸協会

No.57 2010.1.

# CONTENTS

aaca 第21回設立記念会

第19回AACA賞・第8回芦原義信賞総評 ..... 1

第19回AACA賞 ..... 2

第8回芦原義信賞 ..... 3

21世紀・絵画手の仕事 手にこだわった14人の表現 ..... 4

AACA+7人 exhibition vol.3 ..... 6

aaca建築と文化を語る夕べ

日本建築の技術～古建築に学び次世代へ引き継ぐ～ ..... 7

関 雅也氏 清水建設(株) 設計本部グループ長

第8回a.a.c.a シナジー展 ..... 8

aaca宇都宮・那須地区建物視察会

aaca視察会に参加して ..... 9

第171回aacaフォーラム「落語とトーク」 ..... 9

新入会員・会員の移動・その他 ..... 10



# aaca第21回設立記念会

開催日：2009年12月2日（水）  
会場：建築会館1階ホール  
主催：（社）日本建築美術工芸協会



左より中島理事、山崎・安河内理事

## あいさつ



**加藤副会長** 皆さん今晚は、昨年は、aaca 20周年記念事業で、多くの成果を挙げることができました。今年は新aacaとして第21回設立記念会を迎えます。AACA賞・芦原義信賞の表彰がありますが、眼目は、このあとにあります懇親交流会です。これは建築・美術・工芸・その他で活躍されている方々の交流を深め親交を厚くする場です。ゆっくり楽しんでいただきたいと思います。それでは、只今から設立記念会を開催いたします。



**中島会長** 本日は、ますます厳しい環境を迎える12月、ご多忙中にも関わらず皆様のご参加いただき、誠に有り難う御座います。また文化庁文化庁芸術文化課野口玲一調査官様のご列席をいただき感謝申し上げます。昨年は20周年記念事業を各委員会中心に皆様のご協力により成功させることができ、本年は丸の内、行幸ギャラリーで10月から1ヶ月間「絵画手の仕事」の展示をしました。また設立記念会の伝統的行事であるAACA賞・芦原義信賞には、すばらしい44作品の応募がありました。本年度第3回の理事会におきまして新任理事2名安河内敦子様山崎輝子様、新任監事1名中島三枝子様が任命されましたことをご報告いたします。今後、協会の運営のためにも、協会の理念を理解される方々の入会を望み開会の辞といたします。



**文化庁文化庁芸術文化課調査官 野口玲一氏**

本日は、第21回設立記念会にお招きいただき誠に有り難う御座います。私共、文化庁として活動いたしまして、感じていることですが、当協会は、建築・美術・工芸それぞれの分野ではなく、それがまたがって複合的に活動され、これからは文化、環境、景観など、複合的領域活動の時代となっており、そういうときにあって当協会の活動がますます重要になると感じております。この度は、AACA賞・芦原義信賞と栄えある各賞の受賞をこころからお祝い申し上げます。皆様は、優れた芸術的創造的環境・景観に寄与されたことが受賞理由と聞いております。

（社）日本建築美術工芸協会は、S63年の法人設立以来、今回の協会賞をはじめ、講演会、研修会などの開催を通じて我が国の建築・美術の発展に大きく貢献されてこられました。これも一重にここにおられる皆様のご尽力の賜物と深く敬意を払うものです。今日私達の身のまわりでは多様な文化芸術活動が行われています。芸術は人々の日々の生活を豊かにするものであり、文化庁におきましては、文化芸術の持つ力、つまり文化力を国の力と位置づけ様々な取り組みを行っていますが、我が国の文化芸術の更なる発展のためには、日頃芸術に携わっている方々の意欲的な活動が欠かすことができません。したがってここにおられる皆様には、更にわが国の文化芸術の発展にご尽力いただくことをお願い申し上げます。終わりに本日受賞されました皆様のますますのご活躍と（社）日本建築美術工芸協会の一層のご発展を祈念いたしまして挨拶といたします。

## 第19回AACA賞・第8回芦原義信賞総評

選考委員長 澄川 喜一  
選考委員 岡本 賢  
" 加藤 貞雄  
" 村井 修  
" 小倉 雅明

選考委員 藤江 和子  
" 近田 玲子  
" 芦原 太郎  
ゲスト選考委員 松永 真



### 総評

第19回となるAACA賞は昨年に引き続き多くの応募作品を得てAACA賞に26作品、芦原義信賞に18作品、計44作品となった。作品のレベルは年毎に高くなり、本年は特に都市空間のモニュメント、彫刻作品やランドスケープとアートとのコラボレーション等様々な美術との共同作品が多く、日本建築美術工芸協会が目指す総合芸術としての環境空間の創造が広く様々な状況の中で行われている事が強く感じられた。応募作品のパネルによるプレゼンテーションも年々洗練されて美しい表現がなされそれだけでも審査が楽しく行えた。

第1次審査を各審査員が提出パネルと資料を熟読する事によって行った。現地を見なければ評価が定まらないものを含め現地審査作品を、AACA賞8作品、芦原義信賞4作品、計12作品を選定した。現地審査では建築主、設計者、施工者の熱のこもった説明と作品に対する思い入れ、愛着を強く感じさせられた。

全ての現地審査が完了した後第2次審査会が開催された。特にアートと環境構成との関係性について広く厳しい議論が重ねられた。AACA賞本賞には「慈眼山成願寺」が選ばれた。開山800年という古刹の伽藍の改築計画で伝統様式に括られる事なくHPシェルと瓦屋根の連なりと水面による新しい和風の美しく厳肅な空間を創造し様々なアートとしての仏像と緊張感のある場の構成が高く評価された。

全ての応募作品が皆思いを込めて、特に建築主との深いコミュニケーションの中から意欲的に作品創りに取り込んでいる事を強く感じ、益々人間の強い創造活動によって素晴らしい環境が作られていくであろう事を期待できた。応募された多くの方々の意欲に敬意を捧げ又感謝申し上げ、今後日本建築美術工芸協会への御支援をお願いして審査総評とする。

選考委員長 澄川喜一



## 第19回AACCA賞



成願寺近影



成願寺夜景

### ■ 慈眼山 成願寺

作者：石橋利彦 徳川宜子

近年、日本の建築は和風様式から遠ざかって久しい。そんな中で出会った「成願寺」は名古屋にある天台宗の小さな寺であった。進化した新和風とでも言おうか、シャープなシンボルマークのように瞭然と私に迫ってきた。安易な和風復活ではない。現在の高度化した日本人の生活空間をも刺激するに充分な、ユニークで完成度の高い現代的建造物である。

しかも、伝統的な和の精神性が格調高く包含されている。一にも、二にも、まず最初に眼を奪われたのは、やわらかく寺全体を包み込む、曲面の瓦屋根の佇まいであった。寺院の屋根は本来、威風堂々とした反りに特徴があるのだが、その逆をやって類例のない新鮮で美しい景観を獲得していることの驚きである。過去の伝統様式とか、俗っぽい新和風を引きずるようなところは微塵もない。私は建築の専門ではないけれど、これほどのオリジナリティをシンプルシティと繊細さの中で完成させるには、至難なプロセスがあることは想像に難くない。現場を引きあげる夕刻、ガラス張りの伽藍は水の中に行燈のように浮かびあがった。私はその美しさに息を呑んだ。

松永 真

### 優秀賞

#### ■ 風の地平線—蜃気楼

作者：大成 浩

富山湾の蜃気楼で知られる魚津、この町で生まれ育った彫刻家が、年に数度姿を見せる仮想空間、蜃気楼をテーマとして長年抽象的な手法で実像化を追究してきた。「風の地平線—蜃気楼」と題し白御影石を素材として、1体 重量7トン・高さ2.7メートルの巨大彫刻を7体、蜃気楼が出現する海と対峙して並べた。その彫刻の個々は連作としてさりげなく類似に見られるが、各々の作品は御影石の持つ滑、硬、の微妙な表情を巧みに表現し作家の力量のほどを伺わせる。

蜃気楼という現象を実像化するのは難しいと思われるが、形あるものにしなければ町のシンボル、そして観光としての振興拠点とはならない。この実現への動きに国・県・市の賛同を得、その際特記すべきは、その設置に作家の高校時代の同級生らの隠れた協力が、大きな貢献を果たしたことである。この協力こそが市民参加によって本来あるべきパブリックアートの生まれる重要な条件であろう。

この作品の受賞が、これまで本協会の主旨にある美術工芸での応募が少ないなか将来への期待をこめての一作として、また市民参加型の公共空間へのあり方も評価される要因となった。

村井 修



風の地平線

#### ■ 大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホール

作者：新居 千秋

道路から緩やかに傾斜し続く高台に、コンクリート打ち放しの特異な姿の建築がスクッと建っている。この地は歴史に残る大津波の経験によって公共施設はすべて高台に設けられ独特の街の景観が生まれているが、なかでもこの建物の存在感は圧巻である。

建築家は市民ホールのプロポーザルで選定された後、市民とのワークショップをかさね要望の強かった市民図書館を附設・結合するというプログラムの変更を実現させて「市民と共につくりあげた」のだという。

こうした対話の中から「地域の形」「大船渡の形」を「リアス式海岸、穴通し磯、海、空」をキーワードにDesign Script (デザイン・スクリプト)をつくりあげ、建築の空間構成や形状にダイレクトに反映し造形的表現とすることで、この土地固有のダイナミズムを見事に具現化し、またシークエンスを促すように随所に開口を設けて 訪れる人々誰にも新鮮で心揺るがす空間体験を提供している。

活発な市民参画による運営がなされ4万人の街の文化拠点として、次世代への継続的な記憶に残る存在感を確立した“力みなぎる建築”である。

藤江和子



大船渡市民文化会館

### 特別賞

#### ■ 六花の森プロジェクト (六花亭中札内ファクトリーパーク)

作者：(株)大林組 東京本社 一級建築士事務所

六花の森プロジェクトは、帯広空港から近く中札内村の大地に近接する二つの敷地に展開する。ひとつは、見事な柏林の中に密やかに配置された4つの美術館及び屋外展示場、付属施設からなる美術村計画であり、もうひとつは、これも広大な敷地の中に工場棟と川沿いに自然の生態をとりもどす目的でランドスケープされた環境を創出する試みである。

美術村はもともと工場敷地として購入したものであるが美しい柏林を切ってまで工場までは作らないとのクライアントの意向のもとに、この地に美術館構想が生まれ工場敷地は新たに現在の敷地を改めて購入したと聞く。新しく求めた工場敷地のランドスケープは、工場と一体になった修景計画であるが、入念な敷地の自然環境調査のもとにエコロジカルな環境とアートや文化との融合を図っている。社会還元に基づいたクライアントの発想がここまで成功した例は数少ない。

小倉善明



六花の森 お菓子工場全景



## 第8回 芦原義信賞



豊崎長屋（路地）



豊崎長屋（内部）

### ■ 豊崎長屋

作者：大阪市立大学院  
生活科学研究科 竹原義二 小池志保子

この豊崎長屋は築80年の木造長屋を保存再生して、既存の街並みや大阪の住文化を継承することを目指した極めてユニークな試みである。

外観にはあまり手を加えず以前のイメージを踏襲させているが、内部は耐震補強のうえに設備や水回りを一新させ、更にはヒューマンな魅力的空間を巧みに再生させている。昔ながらの長屋を残したいと考えた大家さんの思いを、耐震改修の補助金や登録有形文化財指定による税優遇などを駆使して、賃貸事業として何とか成立させた見識と努力には敬意を表したい。

近所の人が自然に通るぬけ、日常の生活が繰り広げられる懐かしい風景が残され、さらにはこの街の魅力で新しく入居した人々の間にも様々なコミュニケーションが発生している。

このプロジェクトに大学が直接関わることにより、学生たちも現実のなかで多くを学ぶに違いない。街並みに貢献した未来ある新人に贈る芦原義信賞に相応した作品である。

芦原太郎

### 優秀賞

#### ■ 長岡子育ての駅千秋「てくてく」+千秋が原南公園+信濃川桜づつみ

作者：山下秀之/長岡造形大学+木村博幸/長建設計事務所  
+グリーンシグマ+長岡市公園緑地課

信濃川の堤防沿い1.2kmの遊歩道、子育て支援施設、2haの都市公園が、一体的にデザインされている。雪の降り積もる冬にも、大きな遊具で思いっきり遊べる屋内運動広場を備えた「まる・さんかく・しかく」の連なりが特徴的な子育て支援施設。その大きく開放的な窓からは、堤防の勾配に沿って造成した緑のマウンドが視界いっぱいに広がる。円形の造園ユニットによる、せせらぎや水たまり、砂場、野菜畑、ステージ、交差した太いチューブのトンネルなどがつくられた公園では、子供たちが伸び伸びと遊んでいる。長岡市、長岡造形大学を中心に骨格が作られ、サイン、施設の活動を紹介するホームページの編集、イベントの企画など、多くの市民の参加を得て子育ての中核となる場所づくりに成功したばかりでなく、将来にわたり足し引きできる柔軟さを備えたランド・デザインによって、まちづくりにも新しい風を吹き込んだ。

近田玲子



子育ての駅千秋「てくてく」

### 奨励賞



開成学園那古宿舎

#### ■ 開成学園那古宿舎

作者：大成建設（株）一級建築士事務所横地哲哉

房総半島の突端、海をへだてた西の彼方に富士を望む館山湾の鏡浦に建つ夏季のみの臨海学会である。

中・高校生の男子の練成の為の施設で一時に大勢を収容するから、キャパシティ一杯に50畳4室と浴室・洗面所・トイレ、さらに食堂・厨房などを、81×10Mの長方形の箱におさめた。高床式で1階は鉄筋コンクリートの打放し、2階は木造の黒塗りの杉板張りの外壁とし、背後の防風林の松を越えない高さに抑えた。しかも1階部分の敷地境界沿いにめぐらしたよしず榭がコンクリート部分の目隠しとなり、木造を強調する効果となって自然との融合感がある。さらに10M幅の部屋と廊下を風が吹き抜けるから冷房は不要、夏季限定という条件と予算の制約から、工夫を凝らしたプランとなっている。アートワークは無いが鏡浦の景観に溶け込んだ杉板の外壁の美しさ、それを支えるよしず榭、屋根越しの松などを一体化したデザイン感覚を買う。こうした仕事をこなす経験を重ねた若い人が育つという意味での奨励賞である。

加藤貞雄



東京理科大学長万部キャンパス女子寮

#### ■ 東京理科大学長万部キャンパス女子寮

作者：（株）竹中工務店 設計部 坂口昭+垣田淳

長万部の市街地を見晴らす高台に全寮制のキャンパスが設置され、その一画に今回女子寮が計画された。北西に背を向け東南の太平洋を見渡す立地を最大限に生かす為、全室オーシャンビューの寮室となり、夏の海風が吹き抜け冬の山風を遮断する様な計画を実現する為特徴的な壁面が計画された。全面打放しによる長い壁は、緩やかに湾曲して部分部分にスリット状の開口部を設けこの建築の造形的な全てを表現している。

緻密に施工された打放しコンクリートでなければ成立しなかったであろうデザインの質の高さを各所に感じられる。ただ湾曲した壁面が冬の吹雪の時にどんな結果をもたらすのかが気になった。曲面によって構成される内部のフリースペースはコミュニティ空間に利用され、寮生間の濃密な交流が期待される。全体に抑制された材料と色彩計画によって、さわやかな若い女性の感性にふさわしい作品となっている。

岡本 賢



## 21世紀・絵画手の仕事 手にこだわった14人の表現

開催日：平成21年10月8日～11月4日  
会場：丸の内、行幸地下ギャラリー  
主催：（社）日本建築美術工芸協会

aaca副会長 加藤貞雄

aacaとして、初めての絵画展覧会が4週間にわたって、丸の内行幸地下ギャラリーという広い広場で開催出来ました。反響もよく正直ほっとしています。

実は、地下ギャラリーが駐車場だった頃から中島会長と、「ギャラリーになったらaaca主導でaacaにふさわしい展覧会をやりたいね。」と話していたのが、やっと実現に至ったのでした。建築美術工芸協会といいながら、建築に比重がかかり過ぎていないか、美術工芸の分野でもしっかりとした事業ができないか、という共通認識があったのです。

幸いに三菱地所から会場の提供を、aacaの事業ということで受けられることになったのですが、どのような内容にするか悩みました。会場、会期が決まって即開催とは行きません。一年間ぐらいは余裕が必要です。どんなコンセプトにするか、出品作をどう募るか、経費をどうするか……。協会の中で話しをオープンにしてプロジェクトを組むことも考えられましたが、長さ210Mの壁長を大作で埋められるだけの平面作品が揃うか、それを誰が構成するかとの難問への答えが出ません。

そこで頭に浮かんだのが、作家の安原竹夫さんを介して、「どこか美術館のようなところを紹介してほしい。」と以前から相談のあった、かつて私の係わったコンクールの受賞者たち有志の面々のことでした。皆いい仕事をしている作家だが、過去の栄光に比して、現在の美術ジャーナリズム・マーケットで不当に表舞台に出てこれないでいる。そしてコンピューターで仕事をする若い作家たちに、本当の仕事として自分たちの作品を見せてやりたいと強く思っている人たちはです。それから安原さんを軸に作家たちの連絡が行われました。aaca主催だから全員入会する必要がある、経費が、搬入・搬出、パンフレットなどかなり掛かるから、作家の個人負担が小さい、展示作業に人手がいるから労力も必要、など徐々に困難な現実の実態が見えてきて、戻込みする人たちも数名、これは駄目かと思ったら意欲的に参加を申し出る人もあり、だからと言ってグレードを落とせないので、誰でも良いと言うわけにいかず、結局“手にこだわった”仕事で見るとべき作品の有る14人が結集しました。

最大のやま場は10月7日の深夜の展示作業でした。台風襲来のまさに大荒れの真夜中に午前零時から5時まで、地下2階の駐車場から会場まで、大作だからリフトに乗らない作品を、作家たちは何度も行ったり来たり手運びで運び上げて、展示という恐らく生まれて初めての作業でした。私もとうとう完全徹夜で、ライティングの指示などを行い、始発の電車で豪雨の中を帰るという経験をしました。だいたい行幸地下ギャラリーはエキシビット・スペースの機能は全くありません。広い公共通路の両側にガラスケースを配しただけの施設ですから、展示作業が午前零時まで出来ない等の無理を生じるのですが、作家たちがその経験をむしろ面白がってくれ、美術館でない公共空間での大作を展示し、通行する人たちにアピール出来たこと、そしてあの広い会場に林立する丸い柱の影にならず、自分たちの作品で空間を占拠したことに凱歌を上げていたことを、本当にうれしいと思っています。



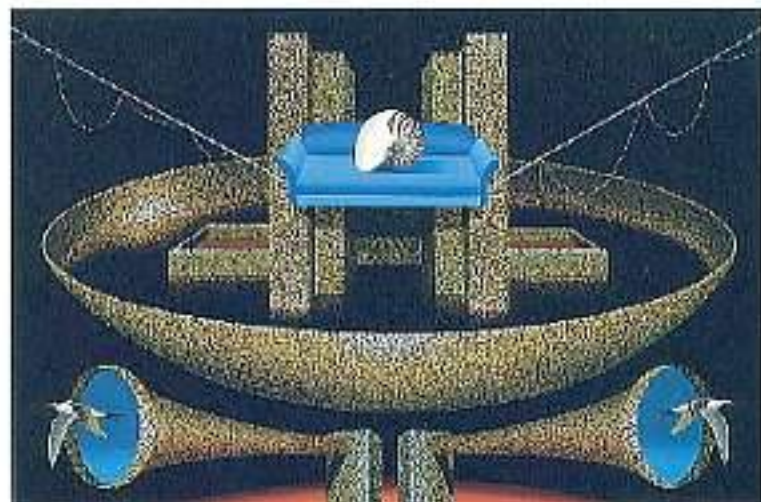
雲気楼 1・09-11 / 大島貞男



飛べそうな日 / 河村純一郎



LOST GARDEN / 小嶋 勇



回世風景A / 黒瀬道則



のしてんてん 35.3-1 / 北藤和夫



MAZORA / 甲谷 武

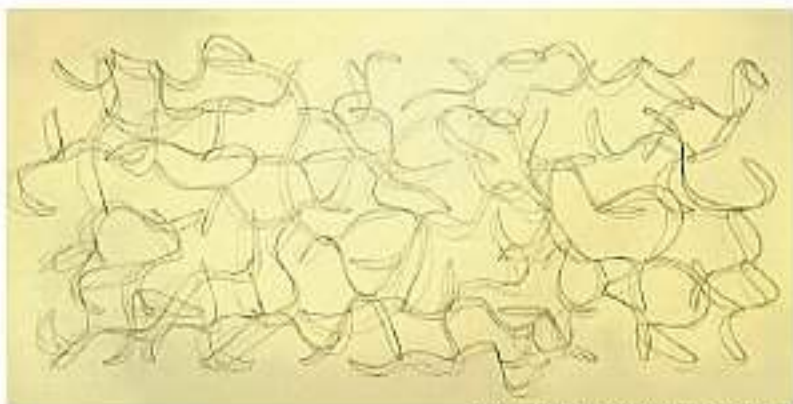




天地氣上 / 板井孝夫



風・土・水 / 笹岡敏引



Relief Construction '09-T1 / 森竹己



風の景く月光 / 山田直也



ほどける気象シリーズ-みんないっしょ / 安原竹夫



わかたち / 藤原和子



しりとり歌 (部分) / 十河雅典



静かなる刻 / 堀 昇

## 夜中の陳列作業

10月8日(木) 早朝5時10分、外は台風18号が接近中で暴風雨の中、「行幸通り」地下1階、長さ210mストリートギャラリーのある公共空間に「乾杯」の声が響いた。加藤先生を囲んでの陳列設営作業参加メンバー23名による関の声である。約8時間に及ぶ夜を徹しての陳列作業が終了した。当日は深夜12時からの作業だったが、aacaと三菱さんとの交渉で時間を繰り上げ9時半から始まった。生憎の台風18号の接近となり交通マヒが心配されたが、なんとかギリギリ間に合った。(遠くは奄美大島から台風といっしょに、三重、岐阜からも総勢10名+3)しかし、作品の搬入車両が平積みトラックでなかったため、条件違反ということで所定の駐車場に入れてもらえず、作家、アルバイト、搬入業者が車から作品一点一点を持ってあの長い駐車場の導線を、何往復も歩いて貨物ELVまで運ばなければならなくなった。大作のため作品を分割していたので総数103点でしかも100号程度の大きさのパネルだからかなり重い、『この風雨でしょ、もっと柔軟に対応して欲しいヨナ』と……。このアクシデントのために約2時間のロス、せっかく作業時間を繰り上げたのに、地下道の暑さも手伝って陳列作業前にして、疲れてしまった。『長い展覧会活動の中でこんな体験初めてだよ』と某熟年作家がぼやいていました。さて、日付が替って、午前0時からがいよいよ陳列作業、予め作家が作成したレイアウトを加藤先生がチェックし、決めた場所に、日美さんを中心に作家+アルバイトのコンビを組み、作業が始まる。さすがに日美さん、分割した作品をピタッと合わせ作品一点に仕上げる。予定の時間をオーバーしたが、午前4時半過ぎ63点の大作がショーケースの中に鎮座しました。それを眺めた作家はもちろん、加藤先生、aaca石田さん、中村さん、そして日美さん、アルバイトの芸大生、全員の表情がにんまり輝いた。人を突き放すような冷たい地下の空間が、生命を吹き込まれたようにゆらぎが起り変容した瞬間でした。そして太い52本の柱も殆んど気にならなくなり、あたかもコラボレーションが成立したかのような感じになった。午前5時半が過ぎて、台風による風雨の中、皆さん、交通マヒを心配しながら、床が水に浸る東京駅の構内へ急いだのである。本当にご苦労さまでした。

(降水確率75%の雨男 安原竹夫)





# AACA

## +7 exhibition vol.3

2009 10/19 mon-11/1 sun

7人のaaca会員による展覧会です。

会期 2009年10月19日(月)~11月1日(日)  
11:00~19:00(最終日は17:00まで)  
会場 建築会館 ギャラリー・中庭  
主催 **aaca** 日本建築美術工芸協会



岡村 光哲

記憶の隙間から洩れる光を求めて、  
自分自身の存在を確かめようとしている。



辻野 榮一

相反する光と闇の私は闇の方に心引かれます。  
それを素直に形に出来ればと思っています。



神代 良明

物質が持つ非情さと確からしさが突でる力学に、  
人為的な時間軸を持ち込むことの意味を  
探っています。



渡邊 早苗

日記をつけるように絵を描いています。  
記憶に残ったものの断片的な部分を  
絵の具を使ってかたちにしています。



塩野 麻理

異素材を組み合わせてかたちにする事で、  
そこに出現する魅力的なマチエールやバランスは  
色々な言葉やリズムとなる可能性を感じます。



庄 漫

光がプリズムを通過して七色の虹になるように、  
モノクロの画面をとおして  
光と色が想像の世界で広がることを望んでいます。



高濱 英俊

私は体感彫刻に取り組んでいます。  
どのような作品が人の触覚的感性を刺激するの  
かを追求しています。



# aaca 建築と文化を語る夕べ 日本建築の技術

## ～古建築に学び次世代へ引き継ぐ～

関 雅也 氏 清水建設(株)設計本部グループ長

開催日：平成21年10月22日

会場：コトブキDIセンター

主催：(社)日本建築美術工芸協会



会場



関 氏

仲秋の候、黄昏時浜松町コトブキDIセンターで、日本建築の技術～古建築に学び次世代へ引き継ぐ～というテーマで、第21回aaca建築と文化を語る夕べが開催されました。講師は、清水建設(株)設計本部教育・文化施設設計部グループ長関雅也氏、社寺建築では、明治神宮神楽殿の実施設計及び監理、圓福寺本堂・庫裏の設計、金刀比羅宮プロジェクトの伝統建築技術支援(H20年度AACA賞受賞)、料亭・数寄屋建築では、オラクル青山センター茶室・聚想庵の設計、歴史的建造物保存では、誠之堂・清風亭移築保存修理の設計その他多数である。

aaca中島会長の挨拶で始まり、会長が建築家として関わってこられた経験談、古建築から学ぶことの大切さについてのお話がありました。

続いて関氏の講演。

関氏 歴史的に見ても、日本建築は常に進歩と後退・技術革新を繰り返しながら、現在まで受け継がれてきています。つまり技術革新は決して継続的なものではなく、きっかけがあるように思えます。それは大陸からの技術の輸入、工具・道具の発明、大地震の経験などが挙げられます。2000年に施行された性能規定化や耐震偽装などによる法改正、各地で起きる大地震、コンピューターの著しい進歩、伝統木造の構造解析の新しい取り組みなど、現在もまた進化する時期であるといえるのではないのでしょうか。

そこで古建築に隠された本物の技術を学び、伝統技術と先端技術の融合を図り、そして次の世代に技術を伝えることが我々の役割であると思います。ここでは、古建築にみられる伝統技術、その技術を取り入れ新技術として展開した事例の紹介と解説をいたします。

「引用・参考・伝統のディテール・彰国者・伝統のディテール研究会著・現代棟梁の設計術・新建築社・木内修著」

日本建築技術に五意達者という言葉がある、特に社寺建築における棟梁(工匠)が理想とした技術で、桃山時代の木割り書「匠明」の堂記集巻末に記されています。かつて棟梁には「五意達者」であることが求められました。

五意達者とは、式尺、算合、手仕事、絵様、彫物の5つすべてに長じる者を言い、これは中世の工匠の理想でもありました。式尺と算合は設計に通じ、手仕事は仕口継手の加工、絵様と彫物は細部のデザインとその実践を言います。現代でいえば設計から施工までということですが、設計を含めた建設プロセスのすべてがひとりの棟梁に集約されていました。

木割り・・・社寺建築全体のプロポーショナルを決定づける技術。各部材が比例関係のルールで構築されている。しかし、このルールに合致した実例はほとんど無く、設計者のデザイン意図が盛り込まれている。

規矩・・・日本建築の美しさを表現するために最も重要な部位である屋根。屋根の美しさを表現するのに最も重要な技術が規矩。設計者の意図を確実に反映するには、自ら実物大の図面を描く技術が必要となる。

取替えのシステム(軒廻りの工夫、屋根下地の工夫)・・・千年以上建っている社寺建築がある。これは日本建築の痛み部分はある程度限られているため、保存修理の時に傷んだ部分を修理し、維持していく。その部分を限定して取替えやすくする技術は、古建築の屋根廻りに多くみられる。これはまさに取替えのシステムといえるものである。

継手・仕口と軸組・・・耐久性、耐震性能の向上を図るために金物を使わずに軸を組み上げる。耐震板壁の採用。強固な仕口の開発。

実大実験・・・耐震性能の把握と検証のため、20年以上前から実大実験を行ってきた。構造解析の分野も積極的な取り組みが行われ、耐力要素別特性の把握、限界耐力計算法を確立する。

この度、関氏のお話をお聞きし、現在の建築に感じることで、建築の現場も他の多くの生産現場と同様、伝統的に培われてきた人間の手仕事が経済合理性のため機械に変わるようになりました。

しかし文化としての「ものづくり」の技術については匠の技を受け継ぐこととその仕組みが必要となると。徹底した調査・研究を重ねた上で、可能な限り忠実に残された事例を拜見し、古建築にみられる伝統技術、その技術を取り入れ新技術として展開すること、これを次世代に引き継ぐことの重要性を考えさせられた講演会でした。

清水建設(株)設計本部教育・文化施設設計部グループが取り組んでこられた足跡が、これからのまさに道標となるであろうと。



(文 長谷川亨)



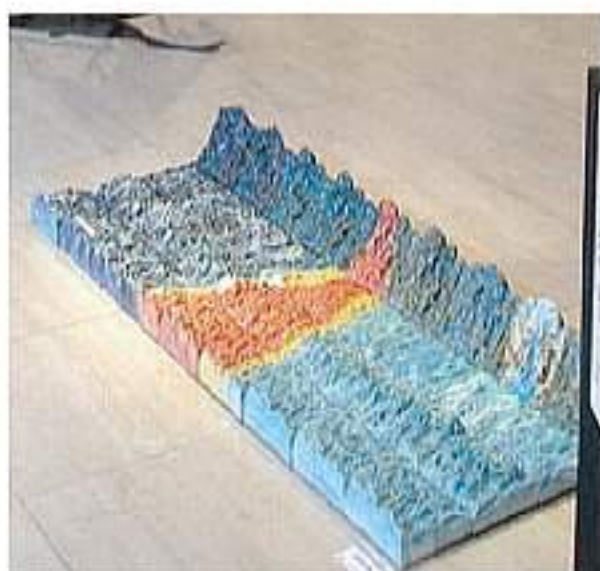
## 第8回 a.a.c.a シナジー展

開催日：平成21年11月4日～11月15日  
会場：建築会館1階・建築博物館 中庭  
主催：(社)日本建築美術工芸協会

シナジーは様々なジャンルの作家がつどい参加することで生まれるエネルギーです。

出展作家

陶芸/片田佳子、ステンドグラス/平山建雄、建築/川北 英、金属/ブース市村、  
版画/長はるこ、彫刻/三木 勝、プリアート/浜崎ベア、陶彫/アドリアン・リース、  
協賛出展/ケント・アルファ(株)



陶彫/アドリアン・リース



陶芸/片田佳子



建築/川北 英



版画/長はるこ



プリアート/浜崎ベア



ステンドグラス/平山建雄



金属/ブース市村



彫刻/三木 勝



ケント・アルファ(株)



## aaca宇都宮・那須地区建物視察会 aaca視察会に参加して

開催日：2009年11月13・14日

会場：宇都宮・那須

主催：(社)日本建築美術工芸協会

文：伴 紀子(松利デザイン株式会社)



石の美術館

「aaca宇都宮、那須建物視察会」(作家、デベロッパー、設計、ゼネコン、サブコン、メーカー等会員総数28名)は平成21年11月13日東京ガス「SUMIKA・プロジェクト」他を、視察した。

東京ガス+伊東豊雄の住宅プロジェクト「SUMIKA」は2007年にプロジェクト始動、2008年宇都宮市内の東京ガス社有地に「プリミティブな暮らし」をテーマに、4人の建築家(伊東豊雄、藤森照信、西沢大良、藤本壮介)の提案する未来の住処=SUMIKAを完成させた。伊東の「パビリオン」、藤森の「コールハウス」、西沢の「宇都宮ハウス」藤本の「HOUSE before HOUSE」である。自然環境に配慮しながら「五感を楽しむ生活」を実現させる為東京ガスはsystemと建築とのコラボを試みているのだが、その未来に向かっていく姿勢に、ビジネスを超えた大きなビジョン、姿勢を感じた。以上



パビリオン



コールハウス



宇都宮ハウス



HOUSE before HOUSE



## 第17回 aacaフォーラム「落語とトーク」

開催日：2009年11月20日

会場：イナックスギンザ8階

主催：(社)日本建築美術工芸協会

講師：三遊亭らん丈師

晩秋の候、暮れなずむ京橋イナックスギンザで(50名位の参加)、古典落語、新作落語と裏話の一夜を楽しみました。講師は、三遊亭らん丈師、本名小野寺明、東京都町田市に生まれ、立教大学卒、落語協会真打、町田市議会議員、早稲田大学院生、俳人と多才な方です。

まずは、aaca中島会長の挨拶から、最近建築学科卒業でも落研出身の人間が出るようになりここで培われた話術は建築の営業に大変役立っている。笑いがより大切になっているとのお話。次に、らん丈師によるトーク、寄席の歴史は、400年前からはじまり、落語の世界には、位が3つに分かれている、それは前座(4~5年)・二つ目(10年ほどで羽織を着れる)・真打(落語の世界では最上位)でその語源は、ろうそくの明かりで蠟が溶け切るつまり、ろうそくの芯を打つということ、現在真打の数は300名ほど、その後15年位かけ出世すると大看板になる。

第一演目は新作落語で一席、辞書を片手に語句を説明され機転のきいたお話で場内が爆笑の渦となり大変盛り上がりました。第2演目は、トークとなり白板をもとに質疑形式で笑いを誘う話術の妙、市議会議員であり、市民からの諸願による苦勞ぶりも面白く解説。次にaaca村松委員からの質問コーナー落語家を目指したわけ・円丈師匠への入門のいきさつ・らん丈名前の由来・市議会議員を目指した理由・今後の夢等々。これにも軽妙洒落な回答で笑いの渦を巻き起こす。最後の演目は古典落語で締めを飾った。会場がらん丈師の話芸のたくみさに酔いしれた夜でした。

aaca主催フォーラムではユニークなテーマでしたが日本の伝統演芸に触れ、その夜はこころの温もりと飛び出しそうな笑いを抱え家路へとつきました。

(文 長谷川亨)



中島会長



三遊亭らん丈師



会場風景



## 新入会員・会員の移動・その他

### 個人会員

(2009年8月～2009年12月 入会 敬称略)

新居千秋	〒153-0052	東京都目黒区祐天寺2-14-19 四宮ビル2F	☎03-3760-5411	株式会社新居千秋都市建築設計
石橋利彦	〒104-0061	東京都中央区銀座1-28-14	☎03-3567-2322	株式会社石橋徳川建築設計所
くぼまり	〒606-8244	京都府京都市左京区北白川東平井町13	☎075-701-5230	アトリエ くぼまり
小池志保子	〒558-8585	大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138	☎06-6605-2875	大阪市立大学 生活科学研究科
古後信二	〒870-1152	大分県大分市上宗方1996-1	☎097-542-7430	ラッツ・アーキテクト株式会社
佐藤建吉	〒263-8522	千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33	☎043-290-3215	国立大学法人 千葉大学
辻野栄一	〒192-0033	東京都八王子市高倉町38-12-C-301	☎042-646-0926	
常松大純	〒191-0033	東京都日野市百草971-166	☎042-592-0200	
戸田知佐	〒105-0014	東京都港区芝3-24-1 駿河ビル5F	☎03-5444-3166	オンサイト計画設計事務所
中村光一	〒141-0031	東京都品川区西五反田4-31-2 目黒不動前マンション1F	☎03-3492-8136	株式会社 ケント・アルファ
三谷 徹	〒271-0092	千葉県松戸市松戸648	☎047-308-8874	千葉大学 園芸学研究所
山下秀之	〒940-2088	新潟県長岡市千秋4-197	☎0258-21-3311	長岡造形大学
山田健一郎	〒390-0803	長野県松本市元町2-8-22	☎0263-38-7878	山田建築設計室
吉田明弘	〒113-0034	東京都文京区湯島4-2-1 杏林ビル4F	☎03-3815-5304	株式会社アプルデザインワークショップ

### 法人会員

株式会社 松田平田設計 代表取締役 中園正樹 担当/鍋島正伯 (技術情報センター)  
〒107-8448 東京都港区元赤坂1-5-17 ☎03-3403-6111

### 会員の移動

株式会社 大林組 東京本社	担当窓口変更	(新) 建築本部プロポーザル部 (設計部門) 川瀬俊二	☎03-5769-1325
株式会社 ニュートーキョー	住所変更	(新) 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-2-3	☎03-3572-2525
株式会社 みはし	担当窓口変更	(新) 営業部 取締役部長 松田光雄	

### QAQA理念

建築家、美術家、工芸家その他の人びととの連携と協力により、豊かな芸術的環境の創造と保存を図り、これを通じて日本文化の向上、発展に寄与する。

#### 会員投稿記事募集中

会員の皆様の作品紹介、活動報告、展覧会、個展等のご案内  
企業の広告・出品展等のご案内を会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談下さい。

#### 会報について

会報へのご意見、ご希望をお寄せ下さい。(広報委員会)

発行 社団法人 日本建築美術工芸協会  
〒108-0014  
東京都港区芝 5-26-20 建築会館6階  
Tel 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
Url <http://www.aacajp.com>  
E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

編集 広報委員会  
長谷川 亨 石田 真人 北村 孝昭  
瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子  
野口 真理 山崎 輝子

事務局

印刷 美和野印刷株式会社